

「語学力」と「人間力」を鍛え、長崎から世界へ

平成25～30年度 選定



長崎外国語大学

取組のポイントや補助効果等

- ◆ 教育の質向上とグローバル化による持続的な発展
- ◆ 改革総合支援事業を活用した効果的な教育改革の推進

長崎外国語大学は、外国語学部のみを設置する単科大学である。キャンパスでは多くの留学生がともに学び、日常的な国際交流を通じて外国語を実践できる。高台に位置する当大学からは大村湾を望むことができ、緑に囲まれた穏やかな環境と最先端の設備により、豊かな学びへの意欲を育てている。

取組の目的・背景

理念・目的は、「キリスト教精神に基づき、外国語と国際文化に関する知識を教授研究し、国際的な視野と円満な人格の涵養を図り、もって地域並びに人類社会の福祉と発展に寄与しうる人材を育成する」ことである。

これに則り、グローバル人材育成を目標に2014年から向こう7年間の計画として外大ビジョン21（以下外大ビジョン）を策定した。ここでは、育成すべき人材像を「日本人として主体的に物事を考え、言語、文化、価値観の異なる人びとに自分の考えを効果的に伝え、その差異を乗り越えてお互いを理解し、新しい価値を生み出すために一致協力して行動に踏み出すことができる人材」と定め、教育改革を行っている。

外大ビジョンの柱は、一つに大学改革によって「教育の質向上」を図ること、二つに外国語大学ならではの取り組みとして教育

の「グローバル化」を推進することである。外大ビジョンは、2008年12月の中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」において大学に期待される指針と方策に沿うもので、そこには「グローバル化する知識基盤社会における学士レベルの資質能力を備える人材養成が重要であり、目先の学生確保が優先される傾向がある中、大学や学位の水準が曖昧になったり、学位の国際的通用性が失われたりしてはならない」との基本認識が示されていた。これはまさに教育の質向上とグローバル化により、持続的な発展を図ろうとする当大学にとって良き処方箋となった。

この指針と方策は、その後、国による財政的な支援と一体となって大学教育改革を全国レベルで加速させることとなった。2010年度に就業力育成GP、2012年度に教育研究活性化設備整備事業、そして、2013年度からは私立大学等改革総合支援事業に採択され、外大ビジョンによる教育改革、教育の質向上とグローバル化を効果的に推進している。

取組内容

「キャンパスが世界、世界がキャンパス」を合言葉に、外大ビジョンによる21項目の多岐にわたる教育改革を実行している。ここではその中の主な取り組みについて紹介する。

≡ 学生の夢を実現する留学支援制度

多くの学生に留学を通じて海外の文化・習慣を体感し、グローバルな視点を身につけてもらうため、さまざまな支援制度を整えている。

■ 国際交流協定校の充実

国際交流協定校は、アメリカやヨーロッパ、アジア圏等、34か国・地域に及んでいる。学習する言語も、中国語、韓国語、英語、独語、仏語等、外国語大学ならではの幅広いメニューを提供している。学生は豊富な選択肢の中から留学先を選ぶことができる。

2019年度は148校でスタートし、協定校からの紹介や海外の大学が集まるイベントに参加し、今も増加している。これは欧米の就学生向けに英語で授業を行う「日本研究コース」の設定、 Semester制の導入等、協定校と適切な教育交流、連携関係の強化に向けて協議を重ね、海外の大学の事情やニーズに合わせて柔軟にプログラムを構築してきた結果である。

■ 学士課程に組み込まれた留学プログラム

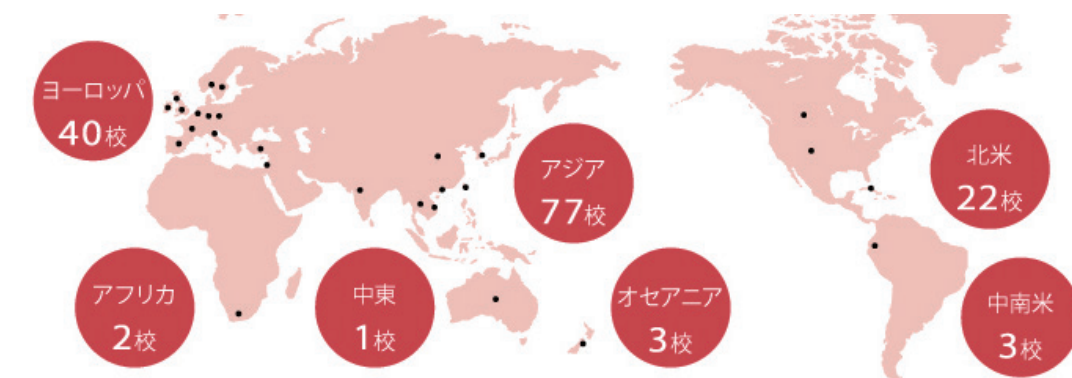
留学前指導から帰国後のアフターケアまでを可能な限り3ポリシーのもとで運営し、大学教育の学士課程内に位置付けている。学生が主体的、能動的に学修することを重視し、教室外での体験プログラムを「ハイインパクト・プラクティス科目群」と位置づけ、留学に関するあらゆる学びについて単位認定を行っている。留学先の大学で取得した単位は、

当大学の単位として認定され、4年間で卒業することが可能となる。

また、留学プログラムに関する質保証を全学的な教育の質保証システムの一環として行っている。具体的にはディプロマ・ポリシーに掲げる①外国語運用能力、②グローバル化、多文化世界・地域の言語、文化、社会に関する知識、③専門分野の知識・スキル、④人間力・ジェネリックスキルの充実や向上を図ることを達成目標とし、特に①、②、④の能力向上に力を入れ、2001年から19年間継続的に点検・評価を行い、質向上・改善に努めている。そして、留学の成果の測定・可視化ではGPA制度の他、外部の語学検定やPROGテストの結果を活用することで、留学の成果を学生自身に理解させ、さらなる成長を促している。学生は自分が学んでいる外国語が実際に使用されている地域で身につけた知識や能力を試し、語学力に磨きをかけて日本に戻ってくる。これは、外国語の習得を志す学生の願いであり、当大学が外国語大学として実施している語学教育の基本方針でもある。

■ 学費負担ゼロで留学が可能

100校を超える独自の協定大学その他、アメリカのネバダ大学に事務局を置く国際交流を目的とした大学コンソーシアムに加盟している。これらの大学との交換留学は、長崎外国語大学への授業料のみで、留学先への負担は発生しない。経済的な理由で留学を諦めることがないよう、学生の夢を後押ししている。この他、



地域別の国際交流協定校

2か国語の習得を目指す学生に「2か国留学」、「2言語留学」といった全国的にも珍しい外国語大学らしいプログラムを提供している。

■ 長期間の交流協定と安心サポート体制

留学期間は1年間あるいは半年間の長期のプログラムで、海外の各大学とはすべて国際交流協定を締結している。

長期にわたる学生の相互交換や教員の交流を通じて、現地の教育環境や生活事情を十分に把握している。そのため、留学先のスタッフも日本人留学生の受け入れに熟知し、現地でのケアも万全となっている。

複数回にわたる留学説明会や先輩からの留学相談、アドバイザーの個別指導等により留学の準備をスムーズに進めることができる。留学中は1人ひとりにアドバイザー教員がつき、SNSやメールを通して常に近況を共有し、疑問や不安をその場で解消することが可能となっている。また、突然の病気や事故に備えた海外保険への加入、当大学が加盟しているJCSOS（海外留学生安全対策協議会）の危機管理システムで、小さなトラブルから健康相談まで、学生や保護者が専門家からアドバイスを受けることができるなど、安心して留学生活を送れるサポート体制を整えている。



留学説明会の様子

≡ 留学気分を味わえるアンペロス国際寮

2014年度に外大ビジョンの開始と合わせて、多言語・多文化キャンパスの構築の一環

として女子寮を改修し、収容者数407名、うち約半数が留学生というアンペロス国際寮を開設した。留学生とともに暮らし、留学生とともに学ぶスペースとして、共同キッチン、学習スペース、ジム等の設備を充実させ、日本人と留学生の代表者がレジデント・アシスタントとして寮の運営や新入生歓迎会、クリスマス祝会等、各種行事を行って交流を深めるとともに、寮生活上の問題の解決にも当たっている。現在は満室で入寮希望者は順番待ちの状況である。入居率は約60%から100%にまで上昇し、寮運営の収支が改善された。

外大ビジョンを通じたこれらの取り組みによって、留学生が数多く学ぶグローバル化が進んだ大学として地域社会の認識が高まり、地域の学校や団体のイベント等に留学生が招かれる機会が増え喜ばれている。日本人学生も地域の国際的なイベントに参加し、通訳等で活躍している。グローバル化ビジョンが九州全域の高等学校の生徒や教師に浸透し、留学を前提とした学生が増え入学者数も定員を超過するようになった。

そして、国際交流の協定校の増加により世界各国からの留学生が当大学のキャンパスで学び、日本人学生と留学生の交流も活発となり、多言語・多文化キャンパスが実現した。また、日本人学生の学修意欲の向上も見られる等、その教育効果は大きい。

実施体制

学長が議長を務める「大学協議会」を教育研究に関する重要事項を審議する最高意思決定機関とし、外大ビジョンを実行している。

グローバル化の推進に関する事項は、学長の諮問機関である「国際交流委員会」、学士教育課程及び授業に関することは、「教育支援委員会」において、機動性を持って審議している。

成功のポイントや苦労した点

2001年の大学開学から3年間は定員を満たしていたが、4年目から減少に転じた。2008年度には入学定員充足率61%、収容定員充足率69%にまで低下し、文部科学省の学校法人運営調査の経営指導対象となり、経営改善が待ったなしの状況にあった。

このような中、教育改革の取り組みを中長期改革である大学改革ビジョンとして位置付け、恒常的な点検・評価・改善のサイクルを稼働させ、教育の質改善に取り組んできた。改革総合支援事業の諸項目は、大学の国際化を推進する取り組みの明確化や教職員の改革マインド醸成に大いに役立った。

そして、外大ビジョンに基づく継続的な大学改革が功を奏して2017年度以降定員割れが解消し、2度目の経営改善指導校から解除され、現在は定員を超過している。

国際交流や留学プログラムの運営においては、リスク管理上の要素も含めて、さまざまな問題や課題が発生し、解決、改善に向けた迅速な対応を行ってきた。これらのきめ細かな対応は、小規模大学ならではの機動性を活かした取り組みとして結果に結びついている。

グローバル化成功の鍵は、スタッフである教職員の対応能力による。当大学は外国語大学であり、留学経験のある教員が多く、教員に加えて国際交流センターでは外国人や外国

語が堪能な職員を配置し、海外の協定大学との連絡調整や留学生の指導、日本人学生の留学支援に当たっている。さらに、留学のための学修支援やオリエンテーションを実施し、留学を希望する学生に対してきめ細かな対応を行ってきた。こうした取り組みとPDCAサイクルの実現により、学生数、協定校、留学者数は増加し、2019年度は1学年の半数以上である91名の学生が長期の海外留学を果たしている。初めて参加した日本版の2019年THE大学ランキングでは国際性分野で全国10位となり、高校の進路担当者からも高い評価が得られるなど、グローバル大学としての地位を確立した。

今後の課題・展望

しかしながら、ディプロマ・ポリシーの到達度に照らした学生個人やプログラムのレベルにおける学修成果の可視化とその活用や成果の公表に課題を残している。

外大ビジョンは、2020年度で最終年となる。その成果や自己点検評価結果、中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」等の国の施策を踏まえ、2030年を見据えた次期ビジョン・中長期計画を策定中であり、学修成果の可視化等、教育の質保証や教育のグローバル化を重要施策として継続的に取り組んでいく。

改革成果を示す客観的な数値データ（抜粋）

実績項目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
在籍学生数	665人	680人	745人	766人	788人
収容定員充足率	89.9%	91.9%	100.7%	103.5%	106.5%
入学者数	178人	150人	190人	189人	198人
入学定員充足率	104.7%	88.2%	111.8%	111.2%	116.5%
外国人留学生数（正規）	129人	134人	171人	155人	157人
外国人留学生数（短期）	156人	141人	120人	131人	132人
海外留学派遣人数（長期）	64人	100人	77人	83人	91人
海外留学派遣人数（短期）	49人	54人	53人	48人	43人